

天草流人帖

とつくり墓

天草市栢宇土町の共同墓地に「とっくり」の形をした古
墓石がある。

この墓は、天保六年（1835）に亡くなった、流人東
八の墓である。

流人にもいい流人と悪い流人がいたようである。いい流
人の代表は、一町田村に流された定葬上人であるが、この
東八さんもいい流人であったようだ。

というのも、流人の墓を村人が造ることもほとんど例が
ないと思われるのに、墓を造っただけでなく、墓の形も東
八さんが酒が好きだったということで、とっくりという形
の墓を造ったことからよく分かる。

『天草近代年譜』には、次のように記してある。

天保六年八月六日 栢宇土村預かりの江戸出生の流
人重八、この日病没し、字平の墓地に葬られる。同人
は多少教養有り、同村庄屋の下使として重宝がられた
り。性来深く酒を愛せるを以て、時の庄屋小林和仲太
高さ二尺五寸余の徳利型石碑を建て、東水寂流信士な
る碑銘を与えて彼が冥福を祈る。

郷土史家の上中満（万五郎どん）氏は、『ふるさと言葉
で綴る 続天草歴史こぼれ咄』に、次のように重八さんを
紹介されている。



挿絵も万五郎どん作
(同書より)

【とっくり墓】この墓のいわく因縁はこうだ。江戸
生まれの重八どんは天草へ流人となって栢宇土村庄屋
小林和仲太どん預かりの身となっていた。

しかしこの重八どん、流人としては珍しくも読み書
き算盤が堪能であったのだ。江戸商人の番頭格ではな
かったかと推察する所だが、ともあれ、庄屋和仲太ど
んとしては流人ながらも、むしろ使用人として重宝な
存在であったのである。

おそらくその誠実さも買われたのであろう。また無
類の酒好きであったらしく、重八どん亡き後和仲太ど

んの感謝と心意がこの「とっくり墓」となったのである。天草流人中、幸せな生涯を送り得た一人ではあるまいか。よかつたなん重八どん！

まこて芸は身を助けて言うたもん。

こんたはのさつ(のさり)とらすとばな、そんうちわしもあーたばたんねて(あなたを訪ねて)来るけん。酒じやるかな焼酎じやるかな。

流人てふ とくり墓や苔の花

それにしても、重八さんは、何の罪で天草に流されたのであるうか。誤って人を殺したか。いや冤罪かも知れない。

また、重八さんは、江戸出生とあるが、近年江戸送りの流人はなく、大坂から送られてのは間違いないが、どのような人物で、どのように暮らしていて、何時、いかなる罪で流されて来たのか、皆目分からない。

謎が多ければ多いほど、ロマンを掻き立てられるという側面もある。

ちなみに同時期、定舜上人も天草に流され、在住していた。

さて、近代年譜には「重八」と記してあるが、墓石には万五郎どんの挿絵にもあるように「東八」と刻まれている。したがって、東八が正しいと思うが・・・。

重八でも東八のいずれにして流罪地も、の天草で、それ

なりに幸せな人生を送った事と信じたい。

